

父ゼベダイを残して

(マルコ1・13〜20)

一、シモンとアンデレ

16節、17節をご覧ください。ヘイエスはガリラヤ湖のほとりを通り、シモンとシモンの兄弟アンデレが、湖で網を打っているのをご覧になった。彼らは漁師であった。イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」とあります。主イエスが声をかけられたとき、シモン・ペテロとアンデレは、ガリラヤ湖で網を打っていました。続く18節をご覧ください。すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。とあります。ここまでを読むと、シモンとアンデレが間髪を容れずにすぐにしたがったかのように読めます。それは、まちがいでありません。マルコは「すぐに、従った」というメッセージを語ろうとしたわけですから。ですが私は、シモンとアンデレは主イエスの弟子になるという思いがすでにほぼ固まっていたという状態にあったと受け止めます。なぜそのように考えるのかと申しますと、ヨハネの福音書の記述があるからです。ヨハネ1章によれば、弟と思われるアンデレは、バプテスマのヨハネのもとにいました。そこに主イエスが赴かれ

洗礼者ヨハネからバプテスマを受けられました。その際、洗礼者ヨハネは主イエスが自分の方に来られるのを見て言いました。「見よ、世の罪を取り除く神の子羊」と。アンデレはそのことばを聞いて、主イエスの後について行きました。アンデレは、兄のシモンを見つけて言いました。「私たちはメシア(すなわち、キリスト)に出会った」と。こうしてアンデレが、兄シモンを主イエスのもとに連れて行くと、主イエスは言われました。「あなたはヨハネの子シモンです。あなたはケファ(すなわち、岩)と呼ばれます」と。その出来事からしばらく経ってから、きょう開かれた聖書箇所が出来事に続くわけです。

二、ヤコブとヨハネ

19節をご覧ください。また少し先に行き、ゼベダイの子ヤコブと、その兄弟ヨハネをご覧ください。彼らは舟の中で網を繕っていた。とあります。ヤコブの弟と思われるヨハネは、アンデレと共に洗礼者ヨハネの弟子でした。ところが、洗礼者ヨハネのことばによって、主イエスにお従いしたいという思いが生まれました。それが兄ヤコブにも伝播したのであります。私は思うのです。ヤコブとヨハネも、密かに主イエスにお従いしたいという願いを持っていたと。20節をご覧ください。ヘイエスはすぐに彼らをお呼びになった。

すると彼らは、父ゼベダイを雇い人たちとともに舟に残して、イエスの後について行った。とあります。父ゼベダイを雇い人たちとともに舟に残して、イエスの後について行った。という文章に、二人の並々ならぬ決意を感じます。シモン・ペテロとアンデレの時よりも、重たいものを感じます。シモンとアンデレも仕事を辞めて主イエスにお従いして行ったわけですが、ヤコブとヨハネの場合は、父のゼベダイが網元で雇い人もおり、ゼベダイは一人に、特に兄のヤコブに期待をしていたと思われるからです。ヤコブもそれを承知の上だったと思います。ですがヤコブもヨハネも、家を捨てたのでした。それは当時、社会的には評価されないことでした。それでも、主にお従いして行ったという意味合いから、マルコは、すると彼らは、父ゼベダイを雇い人たちとともに舟に残して、イエスの後について行った。と記した可能性はあります。

三、家族以上に大切なもの

聖書は家族の大切さを語っています。例えば、テモテへの手紙第15章8節です。(新改3)もしも親族、ことに自分の家族を顧みない人がいるなら、その人は信仰を捨てているのであって、不信者よりも悪いのです。とあります。ですが家族については、次のようにも語られています。マルコの福音書10章

29節、30節です。ヘイエスは言われた。「まことに、あなたがたに言います。わたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子ども、畑を捨てた者は、今この世で、迫害とともに、家、兄弟、姉妹、母、子ども、畑を百倍受け、来たるべき世で永遠のいのちを受けます。」と。おそらく1世紀の時代、主イエスはキリストにお従いして行くことによって、家族を捨てるような形になってしまった方々がいたのであります。家族は大切です。ですが、最終的に家族を取るか、主にお従いする道を選ぶかとなりましたら、どうでしょうか。主イエスは語られました。マタイの福音書10章37節、38節です。へわたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。自分の十字架を負ってわたしに従って来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。もし家族を顧みないでそのような選択をするなら、その人は信仰を捨てているのであって、不信者よりも悪いのです。という指摘が当たるであります。ですが主は、へわたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。とおっしゃいました。皆さまも、主の導きにお従いし、神の恵みと祝福を得てください。